

国語科学習指導案

日時 平成28年9月9日(金) 1校時

会場 1年1組教室

学級 1年1組(男18名 女17名 計35名)

授業者 軽石 邦子(高橋洋之)

1 単元名

戦争に対する自分の考えを感想文にまとめよう

中心教材名「大人になれなかった弟たちに……」 米倉斉加年(光村図書 国語1)

補助教材名「凧になったお母さん」 野坂昭如(読書の時間に読む本 中学3年生【2】)

2 単元について

(1) 生徒観

本学年は、4月に実施した中学校新入生学習状況調査における「読むこと」における正答率は、県平均に比べ+5.3であった。しかし、記述での回答となると無答が多いという課題もうかがわれた。

中学校の文学的文章の学習において、これまで複数教材を読むことや、学習のまとめを文章化して整理する学習を経験してきており、下記の言語活動にも取り組んだ。

・「花曇りの向こう」(小説)

……内容を理解した上で物語の続きを作文する。題名の意図を解説する。

・「空を見上げて」(随筆) / 補助教材「女川一中生の句 あの日から」

……女川一中生の俳句の中から最も心に響いた一句を選び、俳句中の言葉を引用しながら俳句から伝わってくる思いを書く。

本学級の生徒の傾向として、国語や道徳でも感動教材を好み、積極的に考えを述べたり書いたりする。しかし、テキストをよく読まずに思いつきで答える生徒もいるので、感動した内容や自分の考えを熟考・評価しながら読む活動を重視したい。さらに、毎時間、文章に書いてあることをもとに自分が感じたことや考えたことを簡潔に文章にまとめさせ、記述することに慣れさせていきたい。

(2) 教材観

中心教材「大人になれなかった弟たちに……」は、俳優であり絵本作家である米倉斉加年の自身の実体験をもとにした作品である。太平洋戦争を背景に、弟のヒロユキが栄養失調で亡くなるまでを描いており、戦闘員ではない母親や子どもたちの戦いを伝える内容となっている。作品全体が絵本として書かれたものであるため易しい文章表現となっており、読み進めていく上での生徒の抵抗は少ないと考えられる。また、戦争という特殊な状況下での話であるが、兄が弟を思う気持ちや、女手一つで子どもを守ろうとする母親の愛情は不変であり、戦争体験のない現代の中学生でも共感しながら読むことができる作品である。

また、補助教材「凧になったお母さん」も中心教材と同じく、平和への願い・命の大切さ・家族愛をテーマとしている。想像をはるかに超えた「戦争」時の悲惨な状況を理解するとともに戦争に対する考えを深める手助けとしたい。今回は単元の導入において取り上げ、戦争を題材とした作品への関心を引き出し、感想文モデルを示しながら、本単元での学習の見通しをもたせるよう扱っていく。

(3) 指導観

本単元では、重点的な指導事項ウ・オに迫るために、『大人になれなかった弟たちに……』において最も心を打たれたところを取り上げながら、戦争に対する自分の考えを感想文としてまとめる」という言語活動を設定し、心打たれたところについて熟考・評価しながら自分の考えをまとめさせていく学習を行う。この言語活動の設定により、目的に応じて理解し、解釈する能力や自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力といったPISA型読解力にもつながっていくととらえる。

また、感想文は小学校でも取り組んでいる文種であるが、今回は指導事項を踏まえ、感想文には次の観点を盛り込んで考えをまとめさせる。1点目は、最も心打たれた場面を取り上げる。2点目は、最も心打たれた場面での中心人物の人物像や心情を取り上げる。3点目は、作品を通して自分が考えたことを表現する。そして、これらの観点を盛り込んで感想文にまとめるにあたり、自分の考えを明確に表現するために、引用を効果的に用いることを位置付ける。場面展開や登場人物の描写、言動の意味などに着目し、引用する具体的な表現を取り上げながら自分の考えを明確にしたり深めたりする効果に気付かせたい。

そのために、中心教材では、場面展開に沿って登場人物の描写や言動などの視点を定めて読んでいくようにする。

(4) 研究との関わり

○主体的な学び

主体的な学びを「自分の考えを明確に表現する」意欲や力ととらえ、次の手立てを繰り返すように指導している。

① 自分の考えをもつための着眼点をみつけさせる指導の工夫

どのようなことに着目して自分の考えをまとめればいいのか、具体的な着眼点を提示する。

② 自分の立場と理由を明らかにして書かせる指導の工夫

自分の考えに説得力を持たせるために、理由を明確にして考えを書くことを定着させる必要がある。そのため、自分の考えの根拠となる部分を文章から引用させるなどして、理由をはっきり書かせる。

○協働的な学び

自力解決の時間からグループの態勢をとり、互いにサポートし合って学びを深めていきたい。学習に対して不安を抱かせないための手立てである。

机間指導で熟考している生徒をチェックし、全体交流で意図的な指名をしながら生徒の発言をつないでいく。挙手発言をしないが深い読み取りをしている生徒の考えを全体のものとし、互いに自分の考えを深めたり広げたりして、全員で学ぶよさを感じとらせていきたい。

○振り返り

生徒は、新単元に入る際に「本単元の学習を通して身に付けたい力」を確認している。生徒は、毎時間「今日できたこと」を確認し、さらに本時の学習の振り返りを文章でまとめている。「こういうことをしたら〇〇がわかった」といった学習のプロセスが入るような、また、「仲間の考えからさらにこういうことがわかった、気付いた」といった変容が見えるような振り返りを求めている。

3 単元目標

- (1) 作品の背景にある戦時中の時代状況や家族の在り方などを通して感想をもち、交流を通して自分の考えを深めようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】
- (2) 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容に対して具体的な表現を取り上げて自分の考えを明確にすることができる。 【読むこと(1)ウ】
- (3) 作品に表れている作者のものの見方や考え方をとらえ、自分を見つめ、戦争への考え方や人としての在り方について自分の感想をまとめることができる。 【読むこと(1)オ】
- (4) 文脈の中で言葉の意味を考えたり、表現の工夫や効果を味わったりすることができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 指導と評価の計画(6時間)

時間	学習活動 *留意点	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
1	○単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。 *補助教材を提示し、戦争題材の作品への関心をもたせる。 *補助教材文章の感想文モデルを提示する。複数のモデルを比べ、引用の効果に気付かせる。感想文に盛り込む観点をおさえ、中心教材を読む方向性をとらえさせる。	・戦争を題材とした文学作品に対する興味や共感を深めようとしている。 ・読み手を引き付ける感想文を書くことを目指そうとしている。		
2	○中心教材を読み、心に残った場面、考えたことや疑問点を交流する。 ○題名の持つ意味や、片仮名表記について考える。 *交流の中から、題名や表記への疑問を引き出させる。 ○中心教材を読み取っていく視点を確認する。 *作者が現在もなおお忘れなくしている3つに気付かせる。	・物語の内容を大まかにとらえ、心に残ったことや感想について仲間と交流しようとしている。 ・作者が読者に伝えたい思いをとらえようと仲間と交流したり考えたりしようとしている。	・題名や片仮名表記といった部分から、物語の出来事を作者は普遍的課題として提示していることをとらえている。 ・物語中で作者が最も伝えたいことを「戦争の苦しみ」「母の愛」「命」ととらえている。 ・場面構成をとらえている。	
3	○弟と僕の相互関係をもとに、ミルクを盗み飲みする「僕」の心情を話し合い、「ひもじさ」の場面状況の中での僕の苦しさを読む。	・作品の背景にある時代状況や家族の在り方に対する自分の考えを持つようとしている。	・特徴ある表現に着目し罪悪感の中、ミルクを飲む僕の内面の葛藤、辛さを読み、自分の考えをまとめている。	・文末の特徴や表現技法について理解し、文中で表現の工夫がもたらす効果について考えている。
4	○僕が感じている母の苦労をもとに、疎開の相談に行った母の態度や表情について話し合い、子どもを守る「母の愛」を読む。		・母の表情を描写した表現から、子どもたちを守るために屈辱や貧しさに耐えようとしている母に対する自分の考えをまとめている。	・過去形や現在形、接続助詞の意味を理解し、文脈の中で表現がもたらす効果について考えている。
5 (本時)	○弟の死を通して僕や母の心情について話し合い、「僕」にとって一生忘れない苦しみとなったことや、子どもを失った「母」の無念さを読む。		・僕、母の悲しみを際立たせる場面の描写などに着目しながら心情を読み取り、内容について自分の考えをまとめている。	

6	○中心教材の感想文を書く。 *感想文モデルを参考にさせる。 ○感想文を交流し、自分の考えを深める。	・これまでの学習を踏まえて、感想文を交流し、作品を通して戦争について自分の考えを深めようとしている。	・自分の考えをもち中心教材から最も心に残った部分を取り上げている。 ・現代社会や生き方について考えを深めている。	
---	---	--	---	--

5 本時について

(1) 主題

戦争が奪ったものは何だろう

(2) 学習目標

家族がヒロユキの死をどのように受け止めているかを行動や様子等から読み取り、場面理解を深め、自分なりの感想をまとめることができる。

(3) 評価規準【評価方法】

評価の観点	評価規準	支援を要する生徒への手立て
国語への関心・意欲・態度	・作品の背景にある時代状況や家族の在り方などを通して感想をもち、交流を通して自分の考えを深めようとしている。 【学び合いの観察、ワークシート記入、振り返りシート】	・グループ隊形をとり、困った場合には周囲に相談できるようにするとともに、その中で自分の考えをもとめようとする姿を称揚する。
読む能力	・僕、母の悲しみを際立たせる場面の描写などに着目しながら登場人物の思いを読み、場面に対する自分なりの感想をもち、まとめている。 【学び合いの観察、ワークシート記入、振り返りシート】	・これまでのノートを振り返らせる。 ・仲間と共に考えを深められるようにグループでの学び合いに積極的に参加させる。 ・机間指導を行い、意図的指名で発言させ、発言をつないでいく。

(4) 指導の構想

本時で取り上げる場面3の読解では、他の場面と関連付けて考えたり、言葉の表面的な意味とはまた違った心情を汲みとったりするという力が必要となってくる。

はじめに、自力解決・探究の段階では、学習者一人一人が「僕」や「母」の心情が表れていると感じた行動や様子等に着目し、そこに表れている心情を捉えるという活動に取り組ませる。

協働・深化の段階では、前段階で捉えたことを全体交流し、その中でも、「僕」については「病名はありません。栄養失調です……。」の部分、「母」については「ヒロユキは幸せだった」の部分に焦点を当てながら、全体で読みを深めていきたい。「母」に関しては、一度グループで交流を図りながら、それぞれが他の場面や他の行動・様子と関連付けながら深く考えられるようにしたい。

そのうえで、「ヒロユキの死と家族の思い」が描かれている場面3を読み深めての自分の感想をまとめることにより、理解の深化を図っていく。前時までの読みを通して自分が感じてきたことや考えを本時の学習とつなげたり、関わらせたりしながら場面全体をとらえ、かけがえのない家族をも奪ってしまった戦争のもたらす悲惨さという作品の主題にも思いを巡らせるよう指導をしていきたい。

学習整理の場では、本時の学習で新たにわかった読み取りの視点や仲間との協働的な学習（読み）が自分の学習にどう役立ったのか、深めることが出来たかななどを自覚できるように振り返らせたい。

(5) 展開

学習過程	学習活動	学習内容 ・予想される生徒の反応	■指導の工夫・支援 ●評価 ◇振り返りの場面・活用
課題・見通し 3分	1 学習場面を確認する	・場面3	■これまでの学習を確認する。
	2 学習課題を把握する	「僕」と「母」のヒロユキへの思いが表れている表現に着目しながら、自分の感想をまとめよう。	■本時の学習の流れを紙板書で示す。
	3 課題解決の見通しをもつ		
自力解決・探究 12分	4 場面3を読む 5 「ヒロユキの死」について「僕」や「母」の心情を読み取る	○心情が表れている部分に着目しながら読む。 ○場面3の中で描かれている「僕」と「母」の行動や様子等の表現から心情を想像的に考える。 僕… 毎日、～母と弟のいる病院に～病名はありません。栄養失調です…。暗い電気の下で～忘れられません。小さな小さな棺 等 母… 「ヒロユキは幸せだった。～」大きくなっていたんだね、～初めて泣きました。 等	■グループで取りませせる。 ●「僕」と「母」の心情がわかる表現に線を引いている。 ●線を引く部分をグループで話し合う過程で、「僕」や「母」の心情を考えている。
協働・深化 30分	6 「僕」の心情について読みの交流をする (1)全体交流 7 「母」の心情について読みの交流をする (1)全体交流 (2)「母の言葉」と心情についてグループで読みの交流 (3)全体交流 8 読み深めた「場面3」に対する感想をまとめ交流する。	○読みの交流を通しながら、見方を広げたり深めたりする。 ○「病名はありません栄養失調です・・・」にこめられた思いについて読み深める。 ・食べ物さえあれば死なずに済んだかも(栄養失調は病気ではない)・平和なら生きられたはずなのに・ミルクを盗み飲んだ僕のせい ・何か母の役に立ちたい 等 ・爆撃で死ぬよりは、バラバラで死ぬよりはマシ ・守ってあげられなかった・精一杯の生活の中で成長に気づいていなかった 等 ○「幸せだった」という言葉を発した母の心情について読み深める。 ・他の描写と関連させながら、心情を考える ○他の場面や他の描写と関連づけて読み深めていく。 ・子どもの死を深く悲しみながらも、「僕」にも気遣い、せめてそう考えようとしている母 ・周りにも同様の状況がたくさんあった	●吹き出し・メモ欄の活用。 ■他の場面と関連付けて考えられるよう支援。 ●吹き出し・メモ欄の活用。 ■グループ学習の中で他者の読みに触れながら、深く読み取らせていく。 ■母の他の様子と関連付けた読みをしている生徒の見方を生かしながら考えさせる。 ●吹き出し・メモ欄の活用。 ●根拠を明確にして自分の考えを書いている。
学習整理 5分	9 本時の学習した内容を確認する 10 振り返りシートに沿って本時の学習を振り返る	○行動や様子等に表れている心情の読み取り ○場面に対する感想 ○登場人物の心情理解 ○協働的な学び 等	◇新たに気付いたことや深められたことを記述している。

(6) 板書計画

場面3

「僕」と「母」のヒロユキへの思いが表れている表現に着目しながら自分の感想をまとめよう

ヒロユキの死

僕 「病名はありません。栄養失調です……」

- ・ かわいそうに
- ・ ミルクを飲まなければよかった
- ・ 食べ物さえあれば弟は死なずにすんだのに

罪悪感

無念

母 「ヒロユキは幸せだった。……」

- ・ 爆撃で死ぬよりはマシ
- ・ バラバラで死ぬよりはマシ

⇔

・ 本当は「幸せ」だとは思っていない

→

- ・ 「僕」を悲しませたくない
- ・ 守りきれなくて申し訳ない
- ・ 成長を見届けたかった
- ・ 戦争さえなければ……

・ みとつてあげられた

・ 周りにはもつと不幸な死も多かった

・ 大きくなっていったんだね

・ 初めて泣きました

*場面3を読んだ感想をまとめよう。

(7) 「学びのリフレクション」の視点

単元の途中の段階であるため、今回はこれからまだ続く単元の学習に結び付くことをねらいとし、なおかつ「協働的な学び」の意図を組み込んだリフレクションを設定した。

- ① この文章を皆さんで読み深めてきましたが、これまでの学習を通して学んだことや感想を発表してください。
- ② これまで「凧になったお母さん」「大人になれなかった弟たちに……」という二つの作品を学習してきましたが、そのまとめとして次の時間は感想文を書きます。どんなことを中心に書きたいと思いますか。(また、もっと読んでみたいと思った本などがあれば、挙げてください。)